

「日々の理科」(第 3521 号) 2024, -3, 28  
「青春18切符・日帰り大旅行(10)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

身延線は東海道線「富士駅」から中央本線「甲府駅」を結んでいます。私が乗った普通列車は、その全区間全駅に停車しました。身延線はJR線としては駅間が非常に短く、単線で駅での離合(すれちがい)も多いので、恐らく走っている時間と駅に停車している時間の合計は、同じぐらいのような感覚でした。



富士市と富士宮市のほぼ境界に「富士根駅」という駅があります。もともとは「静岡県富士根村」に建設される「予定」だったので、この名があるそうです。「富士根村」の名の由来はわかりませんが、恐らく「富士山の麓にある村」といった意味でしょう。この駅からも富士山がよく見えます。



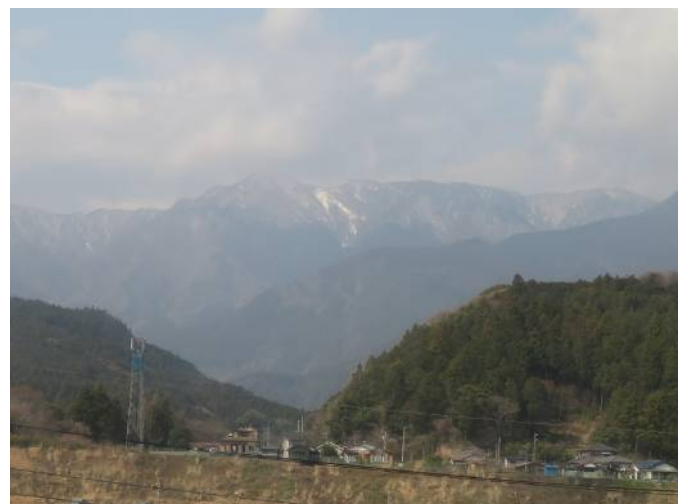
車内で賑やかに話し合っていたハイキング姿の団体さんは、芝川駅で降りました。近くに「釜口峡」という名所があるので、そのあたりを歩くのでしょう。

「釜口峡」は、富士川の中でも特に川幅の狭い場所で、「急流富士川」を実感できるようですが、残念ながら今回は途中下車できませんでした。



身延線を走る特急は「ふじかわ号」ですが、実際に身延線の車窓から常に富士川が見えるわけではなく、主に芝川駅～波高島駅間だけです。富士川は上流の甲府盆地では「釜無川」と呼ばれ「笛吹川」と合流するあたりから「富士川」と呼ばれます。

富士川は「球磨川(九州)」「最上川(東北)」と並んで「日本三大急流」に数えられます。しかし、身延線の車窓から見た富士川は、ぜんぜん急流には見えず、むしろゆったりした流れの川に見えました。甲府方面行の身延線列車から見た富士山は常に右車窓、富士川は常に左車窓なので、座席は最初は右側、空いていて席を移れるなら、芝川駅あたりから左側が良いです。



甲斐大島駅のあたりからは、山も見えてきます。山座は正確に同定できませんでしたが、南アルプス前衛のどこかでしょう。地形図で確認すると、前衛と言っても標高は2500mを超えています。山頂付近には残雪も見られ、もう少し視程が良ければと残念でした。